

あなたと市政をつなぐ情報紙 市民派無所属

府中市議会議員／会派 市民の風

## ゆうきりょう

市政  
通信

毎日ブログ更新中

ゆうきりょう

電話 090-4136-7642



## 朝日町の民間商業施設(イトーヨーカドー)の開業予定は、2026年度以降に延期へ



西武線多摩駅東側、朝日町に建設予定の民間商業施設、イトーヨーカドーの開業予定について、市議会「基地跡地等特別委員会」において、市当局からこの問題で報告があり、「イトーヨーカドー側から2026年度以降に開業を延期する」との報告があったとのことです。同社が主張する理由としては、①新型コロナウイルス感染拡大の影響のもと経済の停滞、②物価の上昇などをうけ個人消費の低迷という経済環境から開業予

定を2年間延長するとのことです。

## 開業予定は当初2020年⇒21年⇒23年⇒24年→26年4月以降へと変遷

イトーヨーカドーの開業は当初2020年でしたが、延期の変遷を重ね今回の2026年4月以降へと変更しています。またイトーヨーカドーについて、3年前の2019年10月10日付の朝日デジタルニュースで、店舗閉鎖、事業再編、売り場面積減少、人員削減の計画について報道されていました。私も引き続き、民間商業施設、スーパーの誘致を要望していきます。

## 分倍河原駅の再整備計画へむけて・駅利用者にとって、利便性豊かな駅の計画設計を！



JR、京王線分倍河原駅と駅周辺の整備計画について、今年の府中市予算から整備計画策定のあめに測量設計委託料、建設工事費が計上されています。同駅の周辺整備計画について、市議会(予算特別委員会)において、他会派の議員(共産党、赤野議員)が質疑で一部取り上げられました。赤野議員とのやり取りのなかで市の答弁は、①今年に9月に鉄道会社との間で駅整備についての基本協定をめざしている、②議会への報告と説明については適切な時期に行う、③「まちづくり検討協議会」のみなさんとともに、機運醸成を図っていくというのが答弁の概要でした。

この質疑のなかで同議員も主張されましたが、府中市は鉄道会社との間の基本協定について事前に市議会への説明と意見、要望を十分に聞くべきです。それがなくては議会と住民軽視という批判は免れません。そこで

大変心配なことは、駅利用者をはじめ周辺でお店など、ご商売を営まれている方たちにとって、くれぐれも利便性ある計画設計にしてほしいということです。

## この間、府中市の駅再開発整備は駅利用者本位の設計であったのか？

この点で言うところの間、府中市が市税を投入して手掛けた駅開発計画について、いくつか疑問の点があります。①府中駅南口再開発では駅ロータリーの設計において、駅東口に横断できる歩道が旧伊勢丹寄りになってしまい、これまでより利用しづらくなり、駅東側の店舗で閉店が増えた、②西武線多摩駅では駅自体は立派になったが、下りのエスカレーターがなく大変不便になった、などの声が寄せられるなど、駅利用者の利便性が十分に図られていない結果になっていることです。この問題は京王電鉄やJRにとっても、顧客ニーズの優先という点からも重要課題です。この点、府中市に強く願うものです。

## 府中市内の高齢者、発熱時に通院移送手段を確保できず自宅で「療養」「一時は死も覚悟」(東京新聞より)

**幸**い重症化は免れたが、もし重症化したら命はなかったのではないかと東京新聞朝刊社会面(3月21日付)に、「府中市内で暮らす高齢の方が先日、発熱した際、病院への移動手段を確保できず、一時は死を覚悟した」というショッキングな記事が掲載されています。

この記事によると、発熱された高齢の女性が東京都の発熱相談センターに相談したところ、医療機関については教えてもらったのですが、「『受診時にはタクシーやバスを使わないでください』と案内され困惑。稲城市に住む娘さんに送迎を頼もうかと思ったが、気が引けて結局、自宅にとどまることを選んだ」とあります。また同記事では「幸い重症化を免れ、十数日間外出せずに過ごした」とのことです。また府中市でもコロナ感染の疑い段階での送迎支援はなく、「市の高齢者支援課の担当者は『対応手段は現在ないが、一報もらえたら対応を検討できたかもしれない』と話した

としています。

## 高齢者は置いてきぼりか・移送手段がない高齢者に何か支援措置を求めたい

これは大変考えさせられるケースです。もしこの方が自宅で亡くなられたとしたら・・・、やはり行政や民間で協力して何か支援策を講じるべきです。記事のなかでこの高齢の女性は「いざ発熱すると身動きがとれず、行政は何もしてくれないと痛感した。高齢者が置いてきぼりにならないように、対策を強化してほしい」とあります。

私も以前、市議会一般質問で高齢者の方で移送手段がない方のために、ワクチン接種会場に行くための支援措置については取り上げたことがあるのですが、今回の発熱時における対応については盲点でした。自宅療養のあり方含め、ぜひ今後取り上げたいと思います。

## 府中市議会 予算特別委員会(3月11~17日) ゆうきりょう 質疑のポイント

## 小麦価格高騰でパンの価格高騰うけ、学校給食の主食をパンからお米にウエイトを移してはどうか

学校給食メニューに大きなウエイトを占めるパン類ですが、現在、円安とウクライナ情勢をうけて小麦の価格が急上昇中です。一方でお米については近年、剰余生産となっており価格も下落。私は給食費を値上げさせないためにも「現状のパンの占める割合から、お米の比重を増やしてはどうか」と質疑、提案しました。

## 府中市も中央図書館で令和5年3月から電子図書サービスの実施へ

市内の公立図書館において電子図書サービスの実施を求めた私の質問に対し、市は答弁で「インターネットを通じて24時間、電子書籍が利用できる電子図書館サービスを、令和5年3月から実施予定です。利用要件などの条件については、他市の例を参考に検討します」との内容でした。今後が期待されます。

## 水害、災害時において市民の避難場所を増やすために、民間ともさらに協力連携を

水害、災害時において住民の避難場所、一時避難施設を確保するために、航空自衛隊府中基地、東京競馬場、多摩川競艇場、市内にある企業の事業所はじめ、民間団体との間で協力、連携をさらに深め、避難箇所を増やすことを質疑、提案しました。

## 市民にうるおいの場である、市民農園について市として農園確保を

現在個人が所有されている生産緑地を、市が積極的に借り上げて、そこを市民農園として活用してはどうか。市民にとって憩いの場として、また農作物の耕作と収穫を通じて、街の緑化と地産地消の実現という点からも、市民農園を確保することは、重要なテーマであると質疑、提案しました。

## 府中市教育委員会は「コロナ感染拡大の非常事態時には、児童、生徒に『登校』か『自宅学習』の選択を可能にする措置をすべき」（府中市議会一般質問）

私は府中市議会の一般質問で、コロナ禍における児童生徒をコロナ感染から守り、オンライン学習（授業）の実施などで、「学びの保障」を求めするために質疑をしました。

**「今後、感染状況等が厳しくなり、学校閉鎖等により対面での授業が行えなくなった場合には、一斉にオンライン学習に切り替えざるを得ないことはありえる」（教育委員会答弁）**

私は通常は学校登校での対面を基本としつつ、コロナ感染拡大という「緊急非常時」の際には、それにふさわしい学習授業の形態があることを主張しました。文部科学大臣も「臨時休校をする前に、時差登校、分散登校、オンライン学習を組み合わせたハイブリットな学習形態を実施してほしい」と発言（新聞報道）。また文科省も大臣発言をうけて、「2月4日付で全国の教育委員会に同様の内容の通達をだした」との報道もあり以下の質問をしました。

●ゆうきりょう質問①・・・今回の文科省通知をうけて府中市の対応方針についても、まん延防止措置などの感染拡大状況時においては、保護者による判断で児童、生徒に「登校」か「自宅学習」の選択を可能にする措置を検討すべきでは。

②そのうえで自宅学習では、自宅からタブレット端末によるリモート参加で出席扱いとし、給食の提供も行うなどの検討を求めたいが教育委員会の見解は。

●教育委員会の答弁①・・・「現在学校は、感染症対策を徹底しながら授業を実施しており、学校に登校し授業を受けることが原則です」「ただし、

感染に不安を感じて、登校を控えるなどの場合には、従来から、出席停止扱いとし、児童・生徒に不利な取扱いはしていません」。

答弁②・・・「また学校での授業とオンラインを活用した学習の選択については、今後、感染状況が厳しくなり、学校閉鎖などにより対面での授業が行えなくなった場合には、一斉にオンライン学習に切り替えざるを得ないことはありえるものと考えています」

答弁③・・・「ただし学校で、対面での授業が実施できている状況下で選択を認めることは、想定していません」。

●ゆうきりょう主張⇒「すでに足立区では1月24日から出席か自宅でのオンライン学習かを選択できる施策を実施しており、府中市でも今後実施すべき」と主張しました。

しかしながら教育委員会の現状におけるオンライン授業の推進については、「後ろ向き」の現状です。保護者の方からも教育委員会にぜひ声をあげてください。



学校のイメージ写真▶

## 府中市の小中学校に自閉症・情緒障害児童専門の固定学級の新設を求める（府中市議会一般質問）

私は市議会の一般質問で、市内の小中学校に自閉症・情緒障害児童、生徒専門による固定学級の新設を求めて質疑しました。府中市内の小中学校には、知的障害とまではいかないものの、通常学級では厳しい境界域の子供について、自閉症および情緒不安定な児童、生徒を対象とする固定学級を現状、設置していない理由について教育委員会の見解を問いました。

●教育委員会の答弁①⇒現在、府中市では情緒障害の児童生徒について、通常の学級及び全小・中学校に設置している特別支援教室で対応し、この特別支援教室は、知的障害のない発達障害または情緒障害の児童生徒を対象とし、専門の教員による個別指導を受けることができます。

小見出し 現時点では、固定による情緒障害特別支援学級設置の考えはない（教育委員会）

●教育委員会答弁②⇒また通常の学級においては、教科指導におけるユニバーサルデザイン化を進めるとともに、特別な支援等が必要な場合には、担任や学習支援員による個別の対応や、合理的配慮支援員による個別支援を行っており、現時点では、固定による情緒障害特別支援学級の設置の考えはありません。

**通常学級での教育は環境的に難しく、都内でも固定学級設置は増加傾向にある**

●ゆうきりょう主張①⇒答弁をうけ、この問題で専門医師の方に知見を伺ったところ「教科指導におけるユニバーサルデザイン化、バリアフリー化の実現のためには、通常学級が本質的に児童生徒の多様性を認めて包括している、という大前提が必要です」との、医師の意見を紹介しました。

●ゆうきりょう主張②⇒しかしながら実際の学校現場はどうか。「基本的に一人の担任が、一般的なスピードにより一定人数以上の生徒を対象に、一通りのやり方で授業を進めるのが通常学級のスタイルであること、知的障害のない児童でも授業が理解しづらいこと。こうした環境からお友達が大量に落ち着けない、不安が高まってしまふなどの状態から登校がままらなくなる児童が出てくるのは必然です」との専門医師の体験談も紹介し、今日のような学校現場の現状において、多様性の包括は困難であると主張しました。

●ゆうきりょう主張③⇒東京都内の小中学校における固定学級の数は、2007年ではその数、23でしたが、2020年には100に増えています。近隣では多摩市が固定学級をもつ小学校を4校ある。他には国分寺、日野、国立、西東京の各市でも開設。府中市も自閉症・情緒障害をもつ児童の教育環境について、通常学級との併用による指導でなく、固定学級を新設して、きめ細やかな指導こそ必要と主張しました。

囲み処理

★保護者の方の訴え・・・自閉症・情緒障害児の場合、小学校でも高学年になるにしたがって複雑になります。このままでは、不登校やうつ病、いじめなどの2次障害が増えていく可能性があります。情緒面でも毎日、あわない環境で頑張っている子供がたくさんいます。友達作りが苦手な子どもたちが、転校しなくても済むように、府中の小学校にも設置してほしいです。



### 朝の駅頭市政報告について

私の朝の駅頭あいさつについて、原則、毎朝下記の予定で行っています。駅頭では「市政通信」を配布しています。市政相談、生活相談なども受け付けています。なお雨天時や、自身の都合により中止の場合もあります。お気軽にお声をおかけください。（朝8時まで）

月曜・西武線多磨駅東口、火曜・予備日、水曜・京王線東府中駅北口、木曜・西武線多磨駅西口、金曜・京王線多磨霊園駅北口

ゆうきりょうに市政などへのご意見、ご要望、苦情などお寄せください。アドレス [yuki4551@ozzio.jp](mailto:yuki4551@ozzio.jp) 電話 090-4136-7642 住所 府中市紅葉丘2-6-3 メイプルタウン吉野D202

※電話の場合は、留守電にコメントを入れてください（電話にでられない場合があります）。

※ゆうきりょうはブログを毎日更新していますので、ぜひご覧ください。「ホームページ検索→ゆうきりょう」

ゆうきりょう



ゆうきりょう のラジオパーソナリティ番組

FM府中（ラジオフューズ、87.4MHz）「府中市議会議員 ゆうきりょう 市民の風」、毎週火曜日22時45分から6分間放送、日曜日にも再放送。市政の動きなど情報を発信中。ぜひお聴きください。